

公益財団法人 音楽鑑賞振興財団

平成29年度 事業報告書

目 次

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業（公益目的事業1）	2
1 研究活動	
（1）研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画	
（2）鑑賞指導に関する調査	
2 普及活動	
（1）指導法に関する講習会の開催	
①音鑑・夏の勉強会 2017	
②音鑑・冬の勉強会 2017	
③音鑑・ICT 勉強会 2017	
（2）研究大会・講習会等の後援	
（3）広報活動	
（4）音楽鑑賞教育マイスター会員の拡充	
3 出版	
（1）季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行	
（2）書籍、映像資料の発行	
II 音楽鑑賞に関する論文作文募集による助成・表彰事業（公益目的事業2）	5
1 第50回 論文・作文募集	
2 賛助活動	
III 音楽鑑賞活動の普及事業（公益目的事業3）	8
1 音楽鑑賞のきっかけづくり	
2 財団保有の音楽関連資料の活用	
3 財団主催コンサートの開催	
4 財団主催音楽鑑賞講座の開催	
5 音楽鑑賞活動への導き	
（1）音楽鑑賞ノートの普及	
（2）電子書籍の発行	
6 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進	
7 チェンバロ音楽普及の支援	
IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業（公益目的事業4）	11
1 岡本地域緑地の保全活動	
2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施	
V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業（収益事業）	11

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業 (公益目的事業1)

1 研究活動

(1) 研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画

平成29年度は、「これからの鑑賞の授業」1&2を踏まえ、過去に出版したLD教材の中から「オーケストラの音楽」を教材とし、その指導事例と教材（映像資料、ワークシート、解説資料等）に関する研究を行った。

上記以外に当財団の主催講習会である「音鑑・夏の勉強会2017」「音鑑・冬の勉強会2017」におけるグループ研修、ワークショップ等を企画立案し実施した。

No.	開催日	検討内容
第1回	平成29年 5月 7日 (小学校部会) 平成29年 5月21日 (中学校部会)	・「オーケストラの音楽」の教材化・題材化： 事例開発の方向性について検討 ・夏の勉強会：企画
第2回	平成29年 6月11日	・夏の勉強会：グループ研修の内容検討 ・「オーケストラの音楽」の教材化・題材化： 事例開発の方向性について検討
第3回	平成29年 7月 2日	・夏の勉強会：グループ研修の内容検討 ・「オーケストラの音楽」の教材化・題材化：事例検討
第4回	平成29年10月 1日	・冬の勉強会：ワークショップの内容検討 ・「オーケストラの音楽」の教材化・題材化：事例検討
第5回	平成29年11月19日	・冬の勉強会：ワークショップの内容検討 ・「オーケストラの音楽」の教材化・題材化：事例検討
第6回	平成29年12月10日	・冬の勉強会：ワークショップの内容検討 ・「オーケストラの音楽」の教材化・題材化：事例検討
第7回	平成30年 2月 3日	・「オーケストラの音楽」の教材化・題材化：事例検討(最終確認) ・次年度の研究内容確認

研究委員一覧 ※五十音順・敬称略

区分	名前	職名・役職
主管	藤沢 章彦	当財団理事／東京女子体育大学講師／元国立音楽大学教授
小学校	石井ゆきこ	東京都港区立芝小学校主任教諭
	梅宮 真里	福島大学附属小学校教諭
	河崎 秋彦	茨城県取手市立取手小学校教諭
	熊倉佐和子	東京都練馬区立関町北小学校主幹教諭
	館 雅之	神奈川県横浜市立高田東小学校校長
中学校	安部 文江	長野県佐久郡御代田町立御代田中学校教諭
	勝山 幸子	東京都港区立六本木中学校主任教諭
	菅原史枝子	宮城県気仙沼市立鹿折中学校教諭
	高道有美子	東京都八王子市立打越中学校主任教諭
	萬 司	拓殖大学北海道短期大学教授

(2)鑑賞指導に関する調査

音楽科で今後必要とされる教材、教具に関するニーズ調査を継続的に実施し、その内容を研究委員と共有するとともに、音鑑・ICT勉強会2017の講義内容に取り入れ、参加者と共有した。

2 普及活動

(1)指導法に関する講習会の開催

①音鑑・夏の勉強会2017(教員免許更新講習選択領域6時間+12時間認定)

体験型の研修会として、1日目の音楽講座は「リコーダー」について、その基本的な奏法を講義と演習で学び、ワークショップでは、リコーダーアンサンブルについて研修した。2日目・3日目は鑑賞指導と評価について、主にグループ毎に研修を行った。「トルコ行進曲」、「ペール・ギュント」、ベートーヴェン作曲「交響曲第5番」を教材にさまざまな音源を聴き比べ、ねらいに適した教材を選ぶ方法、〔共通事項〕を窓口にした楽曲分析の方法、題材構成から指導の流れの考え方や評価の方法などを、講師のアドバイスのもと深めた。

日 程：平成29年8月18日～20日(3日間)

会 場：松本記念音楽迎賓館(東京都世田谷区)

受講者：第1日 30名 <内訳> 小学校教員14名、中学校教員10名、
高等学校教員2名、特別支援学校教員1名、その他3名

第2・3日 38名 <内訳> 小学校教員20名、中学校教員18名

内、教員免許状更新講習受講者 第1日：17名、第2・3日：8名

テーマ：よりよい授業を求めて

内 容：第1日 (1) 講義と演習「リコーダーの基本的な奏法」

(2) ワークショップ リコーダーアンサンブル

(3) 履修認定試験(教員免許状更新講習受講者のみ)

第2日 (4) 講演「よりよい授業を求めて」

(5) 講義「これからの鑑賞領域の指導と評価」

(6) グループ研修「鑑賞領域の指導と評価」の実際：事例作成

第3日 (7) グループ研修「鑑賞領域の指導と評価」の実際：事例作成(続き)

(8) グループ研修の発表、講評

(9) 履修認定試験(教員免許状更新講習受講者のみ)

講 師：藤沢章彦(当財団理事・研究主管)、本村睦幸(リコーダー奏者・指導者)、栗形亜樹子(チェンバロ奏者/東京藝術大学音楽学部講師)、萬 司(拓殖大学北海道短期大学教授)

財団研究委員3名：梅宮真里(福島大学附属小学校教諭)、熊倉佐和子(東京都練馬区立関町北小学校主幹教諭)、高道有美子(東京都八王子市立打越中学校主任教諭)

後 援：全日本音楽教育研究会

②音鑑・冬の勉強会2017(教員免許更新講習選択領域12時間認定)

財団の研究成果の発表と音楽科教育の今日的な課題や情報を共有すると共に、音楽の視野を広げる場として開催した。

日 程：平成29年12月26日～27日(2日間)

会 場：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

受講者：123人 <内訳> 小学校教員47名、中学校教員44名、高等学校教員5名、
特別支援学校2名、その他25名

内、教員免許状更新講習受講者10名

テーマ：よりよい授業を求めて

内 容：第1日 (1) 講演「よりよい授業を求めて」

(2) 講演「学習指導要領改訂のポイント 小学校」

(3) お話とワークショップ「教材研究の仕方について」

(4) 講演「箏曲の歴史と魅力」

第2日 (5) 実践報告「音楽科と生活や社会との関わりについて」

- (6) 講演「学習指導要領改訂のポイント 中学校」
- (7) ワークショップ「『郷土の音楽』鑑賞指導」
- (8) 履修認定試験（教員免許状更新講習受講者のみ）

講師：藤沢章彦（当財団理事・研究主管）（1）
 津田正之（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）（2）
 臼井 学（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）（6）
 江田 司（名古屋学院大学准教授）（3）
 千葉優子（宮城道雄記念館資料室長）（4）
 財団研究委員10名（7）

発表：東京学芸大学附属世田谷中学校 原口 直（5）
 後援：全日本音楽教育研究会

③ 音鑑・ICT勉強会2017（教員免許更新講習選択領域6時間認定）

音楽科においてもICTを活用した授業が求められている現状に対し、音楽の授業で活用できる教材の作り方など、ICT活用の初歩的な勉強会を年2回開催した。

日程：平成29年9月 9日（1日間）
 平成29年9月10日（1日間）

会場：松本記念音楽迎賓館（東京都世田谷区）

受講者：述べ18名〈内訳〉 小学校教員11名、中学校教員3名、その他4名
 内、教員免許更新講習対象者：8名

内容：(1) 講義「教育の情報化と音楽科教育」
 〈教育の情報化について〉 〈ICT活用の考え方〉 〈音楽科での活用について〉
 (2) ワークショップ「デジタル教材を作ってみよう」
 Windowsの基本的なソフトウェアやフリーウェアを使用して、鑑賞指導用の
 簡単なデジタル教材作成方法を研修。
 (3) 履修認定試験（教員免許状更新講習受講者のみ）

講師：林田壮平（当財団事務局主査・ICT担当）

(2) 研究大会・講習会等の後援

鑑賞の指導法に関する研修会に講師を派遣・紹介、機材を貸出しするなど、各地の音楽教育研究会などの研修を15件支援した。

- ・「これからの鑑賞の授業」講習会への講師派遣。（13件／参加人数：558名）
- ・機材貸出し。（2件）

(3) 広報活動

●パンフレットの制作・ダイレクトメールの発送

財団の事業内容を広報するため、平成29年度財団事業案内パンフレット、作文募集ポスターなどを制作し、作文募集にあわせて、全国の小学校・中学校・高等学校・教育委員会 約4,000件に向けてダイレクトメールを発送した。

●音楽教育研究大会に出店し、先生方と直に対面して財団の事業を広報した。

- ・全日本音楽教育研究会全国大会 沖縄大会(総合大会) 他4件

●音楽教育研究大会の紀要等に向けて広告を掲載した。

- ・全日本音楽教育研究会全国大会 沖縄大会(総合大会) 他12件

●インターネットからの発信

メールマガジンやSNSでは、出版物の発行や勉強会の募集などの財団の情報をタイムリーに、音楽教育関係者向けの当財団ウェブサイト「ONKANウェブネット」では、各地で行われる研究大会や公開授業などの音楽教育に関わる情報と、過去に財団が発行した月刊誌の記事など教材研究や指導法に役立つ情報を発信した。

(4) 音楽鑑賞教育マイスター会員の拡充

上記(3)広報活動と連携を図ったが、会員数は若干減少した。

3 出版

(1) 季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行

年4回、季刊「音楽鑑賞教育」(Vol.29～Vol.32)を発行した。特集テーマは、編集会議を設定して、実践的な授業づくりについて、いろいろな角度から検討して決定した。また、授業づくりに役立つよう教科書掲載の教材を中心に、教材研究に役立つ情報「教材ノート」、その教材を扱った展開例「私のレシピ」を毎号4曲取り上げた。

No.	通巻	発行日	特集
Vol. 29	533号	平成29年 4月 1日	音楽の授業づくり「実感をもって取り組む音楽の学習」
Vol. 30	534号	平成29年 7月 1日	音楽の授業づくり「特別支援教育と音楽」
Vol. 31	535号	平成29年10月 1日	音楽の授業づくり「音楽室の環境をどう工夫するか ～楽しく、主体的に学ぶ環境づくり」
Vol. 32	536号	平成30年 1月 1日	音楽の授業づくり 「私が考える『主体的・対話的で深い学び』とは」

編集委員一覧 ※五十音順・敬称略

名前	職名・役職
川池 聰	当財団理事
加藤 徹也	当財団理事／武蔵野音楽大学教授
加藤富美子	東京音楽大学教授
佐野 享子	横浜高等教育専門学校講師
藤沢 章彦	当財団理事／東京女子体育大学講師／元国立音楽大学教授
山下 薫子	東京藝術大学音楽学部教授

尚、年間購読者数を増やすために、教員歴の若い教員にも取り組みやすく、読みやすいものとなるように、写真やワークシートの掲載を増やしたりするなど、誌面構成を工夫した。

(2) 書籍、映像資料の発行

- 平成28年度の研究活動で開発した研究成果「指導事例と教材」を、DVDブック事例集2「郷土の音楽」(事例と解説、ワークシート等の補助資料、映像資料)として出版した。

II 音楽鑑賞に関する論文作文募集による助成・表彰事業 (公益事業目的2)

定款第45条(選考委員会)の規定に基づき、第4条に掲げる研究助成の対象の審査及び褒賞に関する事項を審議する選考委員会を設置している。平成29年度の選考委員会は任期2年の2年目となり下記6名の方に委嘱した。また、論文・作文の審査を行うための選考専門委員は下記16名の方に、審査顧問を下記1名の方に委嘱した。

※選考委員長とチーフを除き五十音順、職名及び役職は平成29年10月現在、敬称略

選考委員

渡邊 學而	選考委員長／当財団常務理事／音楽評論家
阿部 陽一	東京都世田谷区立世田谷中学校校長／全日本中学校長会予算対策部長
小原 光一	元当財団常務理事／元横浜国立大学教育学部教授
高橋 基之	実践女子学園中学校高等学校校長／元全国高等学校長協会会長
早川 修一	東京都練馬区立向山小学校校長／全日本音楽教育研究会副会長
森 俊介	パイオニア株式会社総務部部長

選考専門委員 ◎：チーフ

研究助成の部	
◎藤沢 章彦	当財団理事／東京女子体育大学講師／元国立音楽大学教授
加藤富美子	東京音楽大学教授
河野 正幸	聖徳大学教授／全日本音楽教育研究会副会長
作文・小学生の部	
◎川池 聰	当財団理事
小崎 仁	東京都立川市立西砂小学校校長／全日本音楽教育研究会常任理事
津田 正之	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
馬場千鶴子	東京都文京区立駕籠町小学校校長／全日本音楽教育研究会常任理事
宮田 俊明	東京都渋谷区立中幡小学校校長／全日本音楽教育研究会常任理事
作文・中学生の部	
◎小松 康裕	全日本音楽教育研究会事務局長
伊藤 民子	神奈川県川崎市立中原中学校校長／全日本音楽教育研究会常任理事
臼井 学	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
風見 章	東京都杉並区立泉南中学校校長／全日本音楽教育研究会副会長
角 康宏	東京都葛飾区立青戸中学校校長／全日本音楽教育研究会常任理事
作文・高校生の部	
◎金本 正武	千葉大学高等教育研究機構特任教授
飯田 勉	文部科学省初等中等教育局教科書調査官
九石美智穂	神奈川県立横須賀高等学校校長／全日本音楽教育研究会副会長

審査顧問

福井 直敬	当財団理事／武蔵野音楽大学学長／全日本音楽教育研究会会長
-------	------------------------------

1 第50回 論文・作文募集

①募集テーマ

- 作文の部 「聴いてみつけた音楽の楽しみ」
 研究助成の部 「鑑賞領域の学びを中心とした、音楽科教育に資する実践的な研究」

②実施期間

募集期間	平成29年 6月 1日～ 9月29日	
審査選考	平成29年10月 3日	選考委員会
	平成29年10月 4日～11月 8日	各部門別審査・審査委員会
	平成29年11月 9日～11月22日	最終選考・選考委員会
入選発表	平成29年12月 1日	ONKAN ウェブネット及び郵送通知
	平成30年 2月 1日	優秀作品発表（入選作特集冊子）
表彰式	平成30年 2月 4日	

③応募状況

作文の部	応募総数	送付数	応募校数
	学校内応募数と個人応募の合計	学校内選考後、財団に送付された数	個人応募以外の参加学校数
小学生の部	2,670通	279通	51校
中学生の部	4,095通	269通	45校
高校生の部	256通	48通	8校
合計	7,021通	596通	104校
研究助成の部	応募数		
	4通		

④審査基準

次の観点で応募作品を審査・選考した。

<作文の部>

- (1) 音楽鑑賞の活動や体験における、音楽を聴く楽しみや、音楽を聴いて得た感動などを素直に表している。
- (2) (1)について、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連など知覚したことや、それらの働きが生み出す特質や雰囲気など感受したことをもとに表している。
- (3) (1)(2)の内容を作文全体にわたって整理して表している。

<研究助成の部>

- (1) 鑑賞領域の学びを中心としている、音楽科教育に資するものである、実践的である、以上の3点を満たす研究計画である。
- (2) 研究の成果が、音楽科教育において広く普及することが見通せるものである。

⑤入選結果

作文の部	個人賞				学校賞
	最優秀賞	優秀賞	入選	合計	入選
小学生の部	1名	3名	20名	24名	20校
中学生の部	1名	3名	20名	24名	18校
高校生の部	1名	1名	3名	5名	5校
合計	3名	7名	43名	53名	43校
研究助成の部	入選				
	1件				

●文部科学大臣賞

小学生の部・中学生の部・高校生の部の最優秀賞受賞作文3点を文部科学省に推薦し、同省より賞状が交付され、これを当該者に授与した。

●個人賞

入選者全員に賞状及び副賞を贈呈した。

●学校賞

学校応募の入選者在籍校、及び惜しくも入選にはならなかったものの応募作文が優秀であると認められた学校に賞状および副賞を贈呈した。

⑥副賞

	個人賞副賞	学校賞副賞
作文の部	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘッドホン ・書籍「わくわくオーケストラ楽器物語」 ・書籍「クラシックの時間ですよ！」 ・音楽CD(クラシック) ・音楽CD(ジャズ) <p style="text-align: center;">〈最優秀賞/優秀賞：上記から2点〉 〈入選：上記から1点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽鑑賞ノート My Music Memories」 <p style="text-align: center;">〈全入選者〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・BDプレーヤー ・CDプレーヤー ・AVレシーバー ・スピーカーシステム <p style="text-align: right;">〈上記から1点〉</p>
研究助成の部	498,500円	

⑦入選者表彰式

日 程：平成30年2月4日

会 場：武蔵野音楽大学江古田キャンパス（東京都練馬区）

参加者：94名 〈内訳〉入選者28名、入選者付添41名、

来賓3名、選考委員・選考専門委員13名、財団関係者9名

式次第：(1) 入選者表彰式 〈ブラームスホール〉

- ・選考委員長選考経過報告
- ・最優秀賞、優秀賞、入選、各賞賞状授与
- ・文部科学大臣賞賞状授与、並びに文部科学省来賓祝辞
- ・最優秀賞作品朗読
- ・記念写真撮影

(2) 記念パーティー 〈キャンパスレストラン〉

(3) 記念コンサート 〈ブラームスホール〉

2 賛助活動

全日本音楽教育研究会、日本音楽療法学会、公益財団法人日本オペラ振興会他、計7件に対して賛助を行った。

Ⅲ 音楽鑑賞活動の普及事業 (公益目的事業3)

1 音楽鑑賞のきっかけづくり

財団ホームページ『音楽鑑賞のすすめ』の充実は、これまで当時事務局の手で寄稿し、掲載していたオペラに関する記述を、音楽評論家加藤浩子氏の加筆訂正を以て充実させた。新たに取り組む

電子書籍を中心とした展開を想定していたが、電子書籍の発行が平成30年度となったため、平成29年度は財団主催コンサートのご案内の掲載にとどまった。引き続き電子書籍の発行、音楽鑑賞講座の開講に合わせて、“なるほど！”というきっかけの充実を図っていく。

2 財団保有の音楽関連資料の活用

世の中がアナログ時代の再来を迎えている風潮もあり、サイモン・ラトル指揮、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団の新譜LPの鑑賞会を4回行った。また松本記念音楽迎賓館ファンクラブの手で音楽資料の活用も行った。

3 財団主催コンサートの開催

主催コンサートを2回行った。

① 公演日：平成29年9月2日 午後2時開演

公演名：みんなで楽しむ動物コンサート ～聴こう、歌おう、動物の歌を！～

会場：松本記念音楽迎賓館 A ホール

出演：雨宮知子(歌のお姉さん)、堀家徳子(ピアノ) 企画協力：(有)プラネット・ワイ

入場料：大人3,000円 小学生以下1,500円 未就学児無料 / 入場者数：50名

② 公演日：平成30年3月4日 午後2時開演

公演名：シリーズ“これが聴きたかった！”第2回

オペラ「椿姫」「カルメン」のアリア 活動写真弁士がナビゲートしオペラ歌手が歌う

会場：世田谷区民会館ホール

出演：片岡一郎(活動写真弁士)、佐藤亜希子(Sop)、盛田麻央(Sop)、丹呉由利子(M.Sop)、澤崎一了(Ten)、清水良一(Bar)、仲田淳也(ピアノ)

入場料：一般3,000円、児童・生徒・学生1,500円 / 入場者数：750名

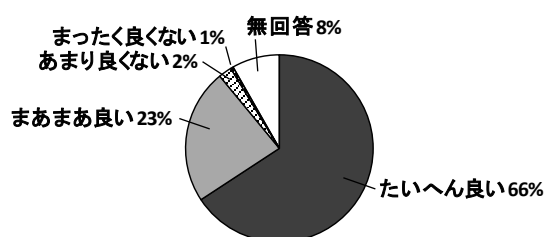
コンサート①は、知人を頼り何とか満席にし、計画通りに終えた。

コンサート②は、担当理事の発案による活動写真弁士と映像を使った組み合わせは、音楽業界初の試みと言われた。実施にあたっては、株式会社世田谷サービス公社の賛同(共催)を得、世田谷区及び世田谷教育委員会の後援を得た。また企画実現については、公益財団法人日本オペラ振興会の映像提供、ストーリー制作監修など協力を得た。

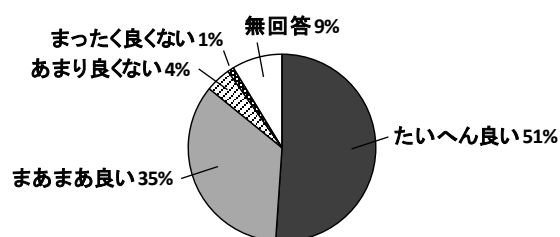
会場設定に難航し、共催者の提案で1,000人規模のホールを無償で借りられることとなったため、ご来場のお客様の満足度、出演者のやりがいを考え、集客に奔走することとなった。このため、広告宣伝費に予算以上の費用を掛けることとなり(188千円)、コンサート自体は主催コンサートでは初めて費用出超となった。しかし、公演を実施する目的のひとつである、財団の事業を知らしめる効果はあったと考える。昨年度開催のシリーズ“これが聴きたかった！”第1回との収支の大きな差には、協賛金の有無も含められる。

初の試みということで、入場者の反応は下記の通りであった。

<3月4日財団主催コンサート>



<3月3日世田谷区主催「初めてのオペラ」>



オペラに親しむ企画としては好評であったが、財団のチケット販売体制のなさを改めて確認した。公演や講演活動を健全な収支で行なうには、興業のできる体制を志向する必要がある。

・ 期初計画にない音楽鑑賞振興活動

3月4日(日)の主催コンサートの会場を無償で借りるという後援を得る代わりに、3月3日(土)の世田谷区主催の子ども向けプログラム「初めてのオペラ」公演の企画、制作、演出を請け負い、子どもを中心にオペラへの興味を惹きだすことに成功し、「音鑑」の名を世田谷区に浸透させた。

4 財団主催音楽鑑賞講座の開催

シニアを対象とした、松本記念音楽迎賓館の楽器と庭園をフルに活用する講座と、受講者の利便性を考慮した駅チカ会場を利用する2つのパターンの講座の計画を立案した。

① 午後のひとときを、お茶と音楽で！『鍵盤楽器の音楽とその魅力に迫る！』

内容：第1回：パイプオルガン、第2回：チェンバロ、第3回：ピアノ、第4回：ピアノ

会場：松本記念音楽迎賓館Aホール、レセプションルーム、立礼茶室“希望亭”

講師：大塚直哉（パイプオルガンとチェンバロ）、田村緑（ピアノ）

時期：2018年9月～開講予定。月2回ペース。各回平日10：30開講で90分間。

料金：12,000円（全4回） 定員：30人～50人

② シリーズ“へええ～！新発見”第1弾『クラシック音楽×いきものたち』

内容：第1回：鳥、第2回：動物、第3回：植物、第4回：昆虫と魚

会場：日本橋三越本店 三越カルチャーサロン（打診中）

講師：渡邊學而

時期：2018年9月～開講予定。月2回ペース。各回平日14：00開講で90分間。

料金：12,000円（全4回） 定員：30人～50人

5 音楽鑑賞活動への導き

(1) 音楽鑑賞ノートの普及

平成26年度に発行した音楽の思い出を自由に綴れる音楽鑑賞ノート「My Music Memories」を広く普及させるための活動を行った。音楽雑貨店や音楽ホール内のショップなどの小売店に見本を送付し案内するとともに、広報チラシの配布、全日本音楽教育研究会全国大会等での販売、松本記念音楽迎賓館での見本展示・販売、論文・作文募集個人賞入選者への副賞としての提供、SNSでの情報発信などを行った。

(2) 電子書籍の発行

音楽をより楽しく鑑賞するために“音楽が聴ける本”としての強みを活かした電子書籍は、平成26年度に構想し、その後シリーズの企画、内容の検討と試作を続けてきた。平成29年度はその発行に向けて取り組み、クラシック音楽を題材とした電子書籍の第1弾、第2弾について、執筆者を交えての企画、制作を行った。また、音源提供元との使用条件の交渉、販売方法の確定、委託業者の選定、委託契約内容の交渉等、平成30年度の発行に向けた準備を進めた。

構成・執筆：渡邊學而（当財団常務理事／音楽評論家）

6 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進

例年通り実行した。

7 チェンバロ音楽普及の支援

●日本チェンバロ協会主催の「チェンバロの日」の支援

日本チェンバロ協会（久保田慶一会長）による「チェンバロの日2017」が平成29年5月15日（土）～16日（日）に開催され、各室満席の盛況だった。今回の特徴としては、館が保管する貴重なモダンチェンバロ「プレイエル」の演奏があり、その調律等に気が配られた。

●若手演奏家の発掘・育成の会場としての支援

平成29年7月22日（水）夏休みの期間に、ボランティア活動家・山野辺氏の中高生へのチェンバロを含む古楽器普及活動を支援した。

平成29年6月18日（日）と平成30年3月31日（土）に、チェンバロ奏者・曾根麻矢子による初心者向け講座を支援した。

●日本チェンバロ協会とタイアップした鑑賞教室・勉強会の支援

平成30年2月4日（日）日本チェンバロ協会のチェンバロ弾き合い会を支援開催した。

IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業 （公益目的事業4）

1 岡本地域緑地の保全活動

例年通り地域の保存樹林を維持した。

2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施

年3回のみどりの講座を実施した。

講座名	開催日	講座内容	受講者数
春の講座	平成29年 5月28日（日）	松本記念音楽迎賓館の散策中心に近隣の森林の見学と押し花葉の製作	16名
夏の講座	平成29年 8月11日（金・祝）	水辺の生き物の勉強と見学 バーベキュー実施	20名
秋の講座	平成29年12月 3日（日）	秋の木の実の観察とクリスマスリース の材料収集	27名

V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業 （収益事業）

テレビ番組、映画は20回、音楽番組は9回、内、Aホールを常設スタジオとして利用したプラネット・ワイ社は6回であった。プラネット・ワイ社は照明器具の鳴りがあるAホールを一時期避けていて回数が少なくなったが、照明器具の鳴り止めを施した結果、戻ってきている。

ブライダル利用はなく、研修も数件にとどまったが、映画撮影のまとまった収入があった。